

食品産業高付加価値化ネットワーク構築

研究・技術開発～事業化連携による新たなモノ・人・産業づくり

研究・技術開発ネットワーク

大学・高専

- ・県立医大／近畿大学／和歌山大
和高専／信愛女短

公設試

- ・工技センター(食品産業部等)
- ・かきもも研究所
- ・うめ研究所

連携

農産物有用化合物活用研究会

〔目的〕 **地域強みの共有**

特産果樹の高付加価値化を考える場

〔構成員〕企業、公設試、学、金、官

〔回数〕年4回

農産物有用化合物活用研究会

会員数	H24	H25	H26
企業	13	28	30
公設試	4	5	5
大学等	—	5	5
官・支団	2	4	4
開催数 (立上)	5	(4)	

研究部会

〔目的〕 **経営資源の集積**

事業具現化へステップアップさせる場

〔構成員〕中核企業によるコンソーシアム

〔テーマ〕加工技術、八升豆、紫蘇 …

農産物有用化合物活用研究会の考え方

【目的】

- ・和歌山の強みを活かす地域連携(「協働と競争」)体制づくり
- ・シーズとニーズのブラッシュアップ
- ・公的助成の活用
- ・社会課題(健康、高齢、環境)に応える品質・機能価値＋感性価値の追求

「研究会」

情報提供、交換の場



「特産果樹の高付加価値化を考える場」

具現化に向けたテーマ設定(研究部会)
(技術開発、MK開発、SCM等)

「研究部会」:「事業具現化へステップアップさせる場」

仲間を作り、経営資源(人、物、金、情報)獲得に向け知恵を集め、商品化・事業化或いは研究技術開発を行う

機能性を活かす商品開発・事業化の仕組み

農産物有用化合物 活用研究会

特産果樹の高付加価値化を
考える場(地域強みの共有)

〈会員構成〉

- ・地域企業 30社
(食品23、化学3、組合3、研究1)
- ・学
(和歌山大学、県立医科大学、
近畿大学、国立和高専、
信愛女子短大)
- ・公設試
(工技センター、4研究機関)
- ・県、財団

平成26年度

研究部会

事業具現化へステップアップさせる場
(経営資源集積)

素材・加工技術開発

地域・国資金活用

梅PP素材の活用

(県内外企業)

果実新加工技術
(過熱水蒸気加工)

モノづくり

機能成分抽出技術
(高周波減圧蒸留)

ブランド力強化

梅商品の高付加価値化
(みなべ梅干協同組合)

元気ファンド

特産果樹の高付加価値化
(JA紀の里)

元気ファンド

新機能性果樹の開発
(露茜、八升豆、山椒)

未来企業育成

商品開発・事業化

2013~

戦略的地域連携の創出(県産業振興戦略+技術開発戦略の統合)

研究会、研究部会運営方針

◇研究会

- 1)栽培、加工、流通、販売、廃棄物処理に至るサプライチェーンに基づく、技術ニーズ、シーズをベースに技術情報交換の場とする。
- 2)課題テーマ関連にする専門家或いは第一人者の招待による情報提供の場とする。
- 3)県助成事業の技術的背景並びに事業成果或いは進捗状況の紹介の場とする。
- 4)ビジネスマッチングにより、調査研究、研究部会の検討を行う。
- 5)研究会会員の交流を深める交流会を年一回計画する。

◇研究部会

- 1)産・学・官のコンソーシアム体制を基本として、事業化を目指す。
- 2)研究部会設置に当たっては、幹事会社の選任、運営規約の設定を義務化し、事務局がその調整、支援を行う。
- 2)運営規約設定に当たっては、研究部会会員が「共存共栄理念を持って相互信頼の関係」で事業化推進出来る様、予め議論の場を設ける。
- 3)研究部会の推進に際し、県等の競争的資金獲得に向け支援する。
- 4)大学・研究機関等の知のネットワークの活用を支援する。
- 5)研究部会の進捗は、年一回以上研究会等で進捗報告する。